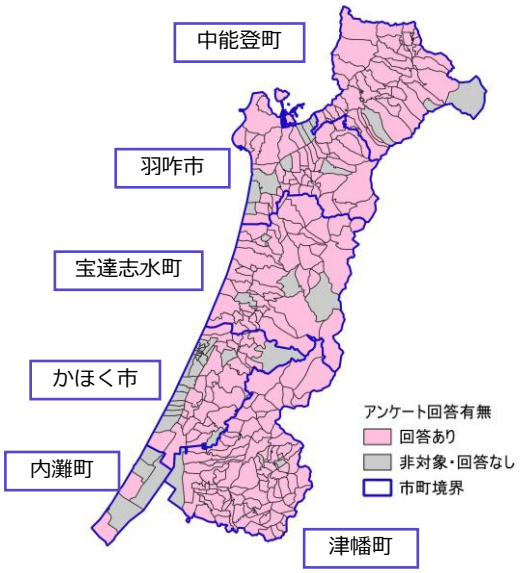
令和６年度野生動物出没被害等アンケート調査の結果について

本県では、野生動物の捕獲対策や被害対策をより効果的に推進するために、農業集落単位で、野生動物の出没状況や被害状況に関するアンケート調査を実施しました。その結果を下記のとおり報告します。

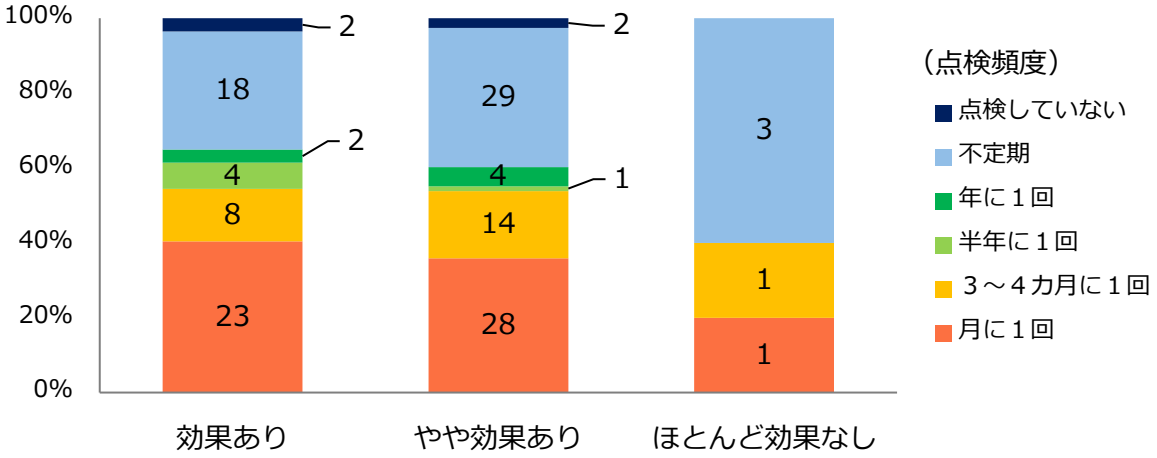


アンケートの回収率は95.7%

内灘町、かほく市、津幡町、宝達志水町、羽咋市、中能登町の計267名の区長・生産組合長等の皆さまにご回答いただきました。非常に多くの方々からのご協力に感謝いたします。

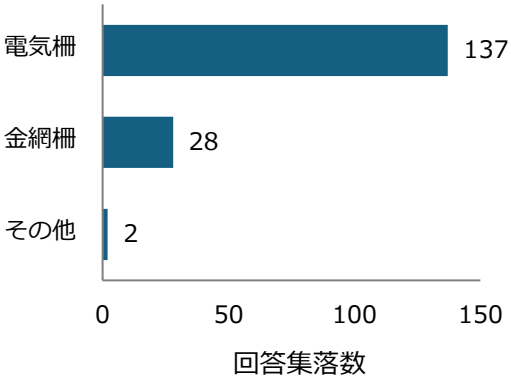
防護柵の点検を「月に1回以上」実施している集落ほど被害防止効果を実感

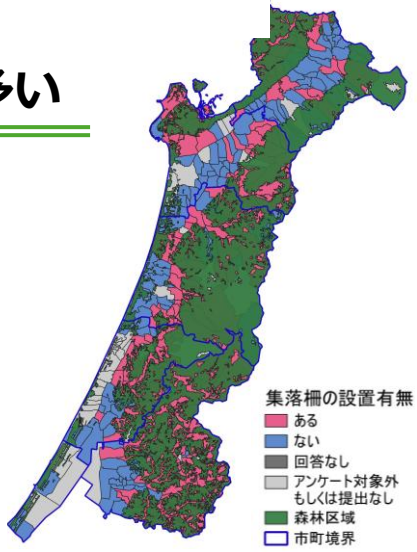
イノシシに対する防護柵の被害対策効果を聞いたところ、点検頻度が多いほど被害対策効果が高いことが分かりました。「月1回以上」の点検体制を作ることが重要です。



集落柵は山間部に設置されており電気柵が多い

６市町の中で集落柵が設置されている地域は、主に、山間部及び山際の集落でした。このうち90%の集落が電気柵を設置していました。

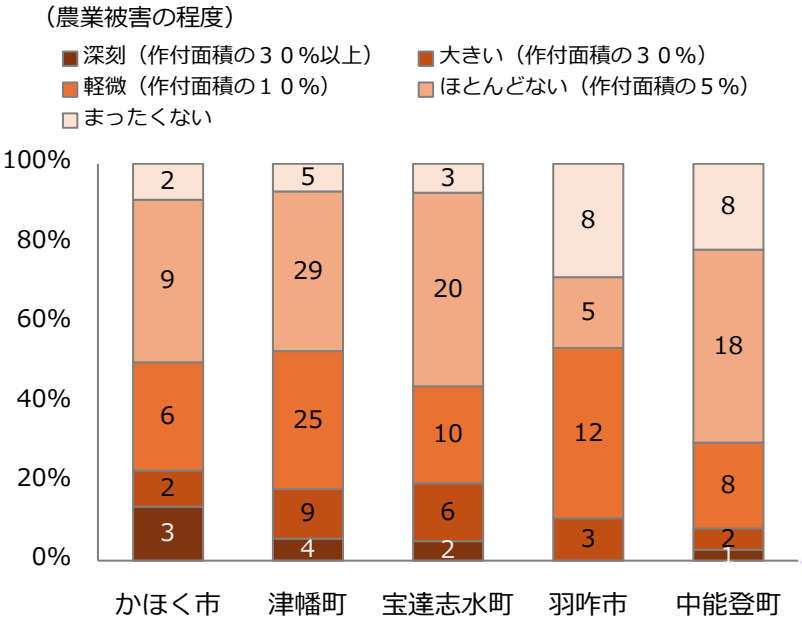


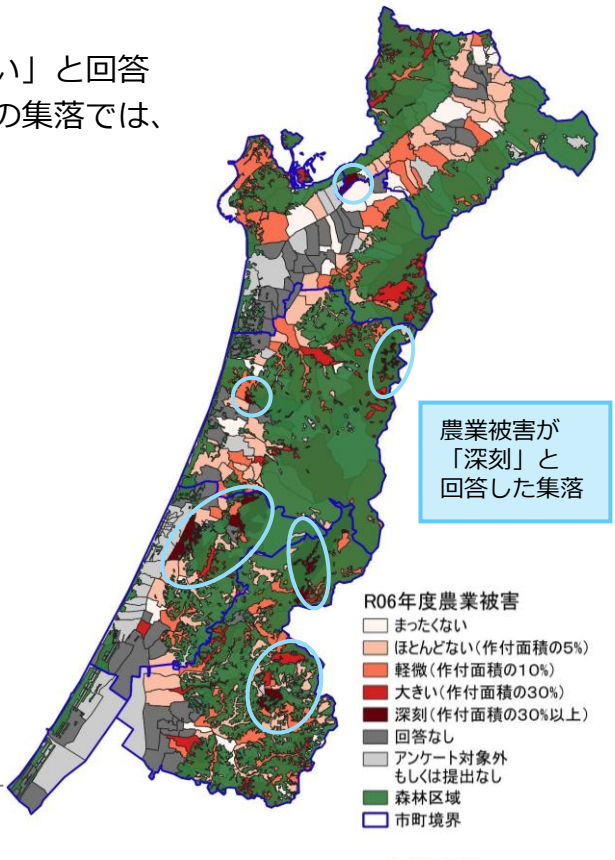


イノシシ

令和６年度の農業被害は約80%が軽微以下

農業被害が「軽微」「ほとんどない」「まったくない」と回答した集落は全体の約80%を占めました。ただし一部の集落では、農業被害が「深刻」「大きい」と回答していました。

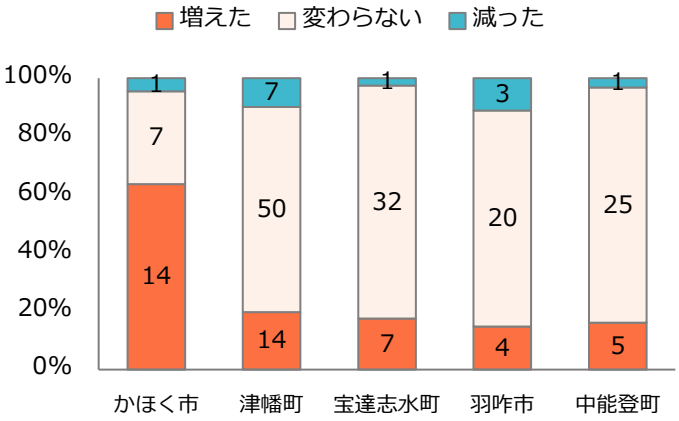




令和６年度に農業被害が増えた集落の割合は15~64%

令和６年度の農業被害は、全体的に「まったくない～軽微」にとどまっているものの、令和５年度よりも増加傾向にある集落も見られています。とくにかほく市では多かったです。

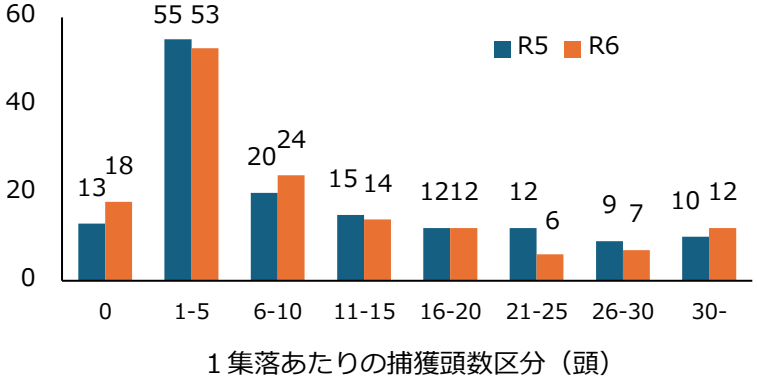
豚熱からイノシシの生息頭数の回復に伴い、今後も農業被害の増加に注意していく必要があります。



有害捕獲頭数は令和５年度並み

内灘町を除く５市町での有害捕獲頭数は令和５年度と令和６年度は同程度の数でした。１集落あたりの捕獲頭数は令和６年度に増えている集落もあります。

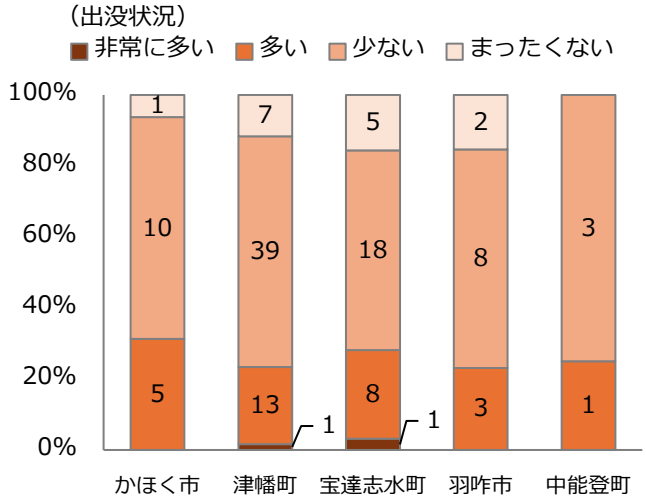
豚熱からイノシシの生息頭数の回復が懸念されており、引き続き捕獲対策を強化していくことも重要です。

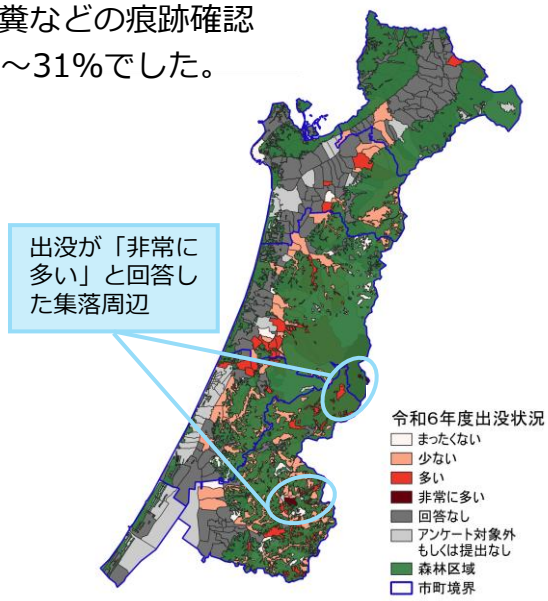


ツキノワグマ

出没が「非常に多い」「多い」と回答した集落は23~31%

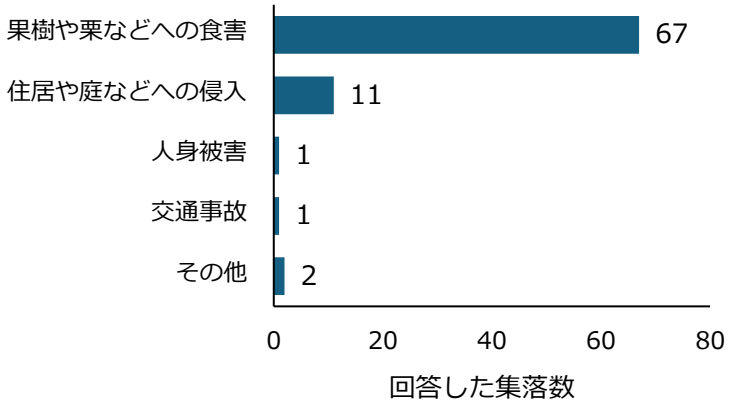
令和６年度にツキノワグマの出没（目撃に加え、足跡や糞などの痕跡確認も含む）が「非常に多い」「多い」と回答した集落は23～31%でした。

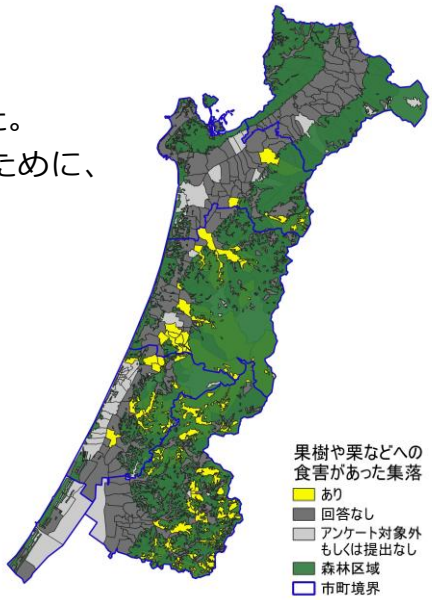




集落内の果樹や栗等への対策が重要

被害内容では「果樹や栗などへの食害」が最も多くなりました。
この被害が確認された地域では、クマの出没や被害を減らすために、摘果されない果樹や栗等を無くす対策が重要です。

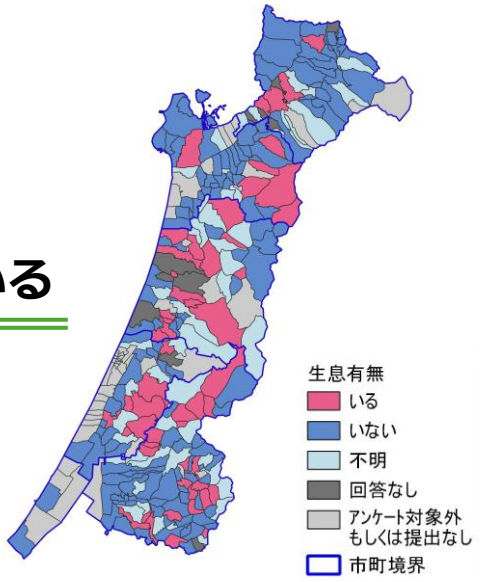




ニホンザル

ハナレザルが生息し被害を発生させている

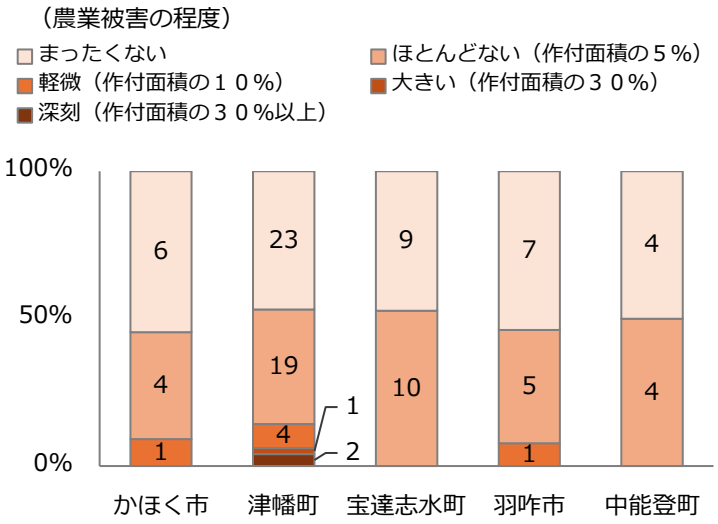
かほく市、津幡町、宝達志水町、羽咋市、中能登町で、ハナレザルの生息が点在して確認されています。ハナレザルによる農業被害は「軽微」「ほとんどない」程度ですが、５市町すべてで確認されました。

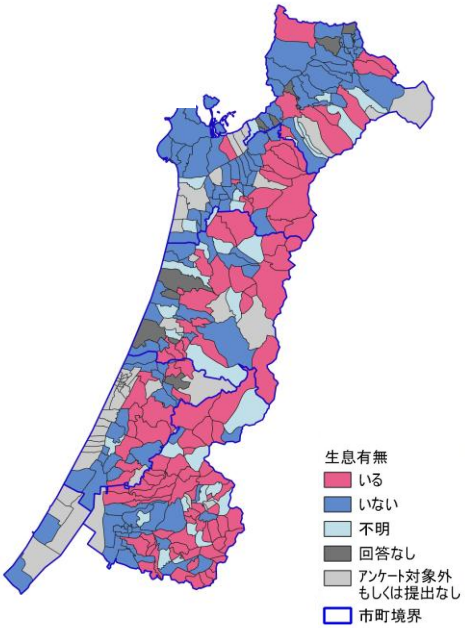


ニホンジカ

ニホンジカの農業被害は少ない

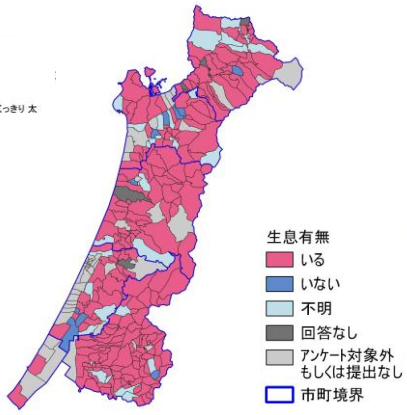
ニホンジカは、５市町の山間部の集落で生息が確認されています。ニホンジカによる農業被害は津幡町で「深刻」「大きい」と回答した集落があったものの、全体的には「軽微」以下であり、被害がまだ顕在化していない状況でした。

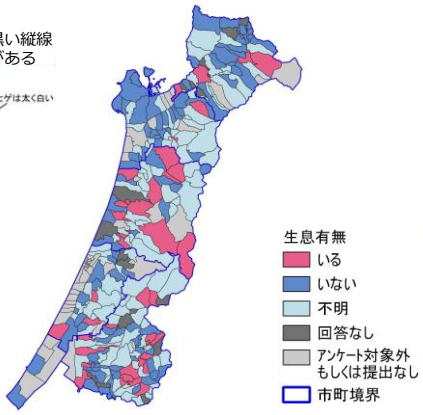


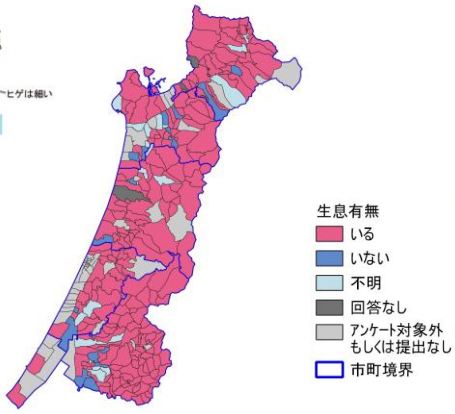


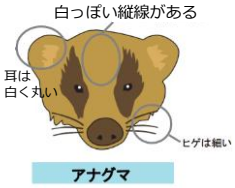
中型動物

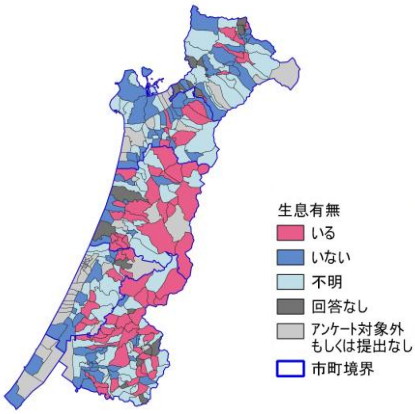
ハクビシンとタヌキは広い範囲で「いる」と回答がありました。アライグマとアナグマは「いない」と回答した集落の方が多くなりました。見分け方は、顔の特徴をご確認ください。











中型動物のイラストは環境省「狩猟鳥獣の見分け方～誤認捕獲の防止のために」より引用

発行元：石川県農林水産部里山振興室